

共に

塩尻市生涯学習部男女共同参画・人権課

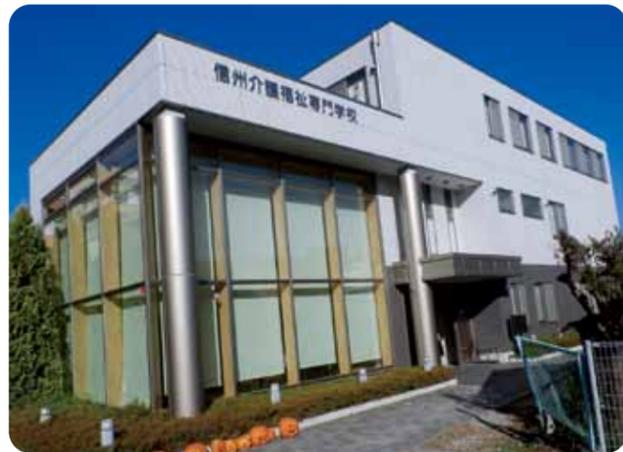
塩尻市大門七番町4番3号
 TEL：(0263) 52-0280 内線3151
 FAX：(0263) 54-2705
 Eメールアドレス：kyoudou@city.shiojiri.lg.jp

特集 ～ 介護の男女共同参画 ～ Part2 介護の未来へ

● 介護職員・専門学校生徒インタビュー ● 日本女性会議・市民の集い参加報告

塩尻市には、たくさんの介護関連施設や、介護に関わる人材の養成学校があります。今回は介護施設等で働く職員や、介護に関わる学校で学んでいる学生の想いをインタビューしました。

取材先は、介護施設と専門学校が関連法人である「有料老人ホームせせらぎ」と「信州介護福祉専門学校」に取材させていただきました。



信州介護福祉専門学校

介護は心、介護を受ける方から「貴方に介護してほしい」と思っただけの人材を育成したい。まず「人として受け入れられる」「社会人として受け入れられる」ことをコンセプトにしている。と石田茂学校長は教育理念を話された。

「接遇教育」を掲げ、少人数制で関連法人とも連携し、介護に携わる人材育成に取り組んでいる。



有料老人ホーム せせらぎ

桔梗ヶ原病院の直ぐ隣にあり、病院(担当医師)との連携がすぐにできる。最期までをお世話する施設として、医療・看護・介護との連携を大切に考えている。「職員が全ての利用者を知り、担当で無いから」が無いようにと様々な役割を担いながらチームでの介護を実践している。

「ありがとう」の一言が喜び、励まし、頑張りの源であると日々介護に向き合っている。



男女共同参画

日本女性会議2014札幌
 未来の景色は、わたしたちが変える
 平成26年10月17日(金)～19日(日)
 札幌コンベンションセンター
 日本女性会議2014札幌に参加して
 おじり女性会議代表 飯森悦子

日本女性会議は、今年、三十一回目を迎え、札幌で行われました。実行委員長林美枝子さん(日本医療大学教授)は「国や自治体の施策に頼るだけでなく、個々の人のわたしたちが自らの課題に出会い、その解決策を模索し、男女共同参画社会の実現に一つでも近づいたための主体的歩みへの覚悟が必要。」と語っていました。

初日、開会式・アイヌ伝統舞踊・基調報告と15の分科会が行われました。基調報告では、内閣府男女共同参画局長の武川恵子さんが、「日本の男女共同参画施策と今後の課題について」述べられました。私は、分科会「女性の活躍推進」テーマ「働くオンナのサバイバル」～女性が社会で、活躍するために必要なこと」に参加し、コーディネーターは東京大学名誉教授の上野千鶴子さん。シンポジストは4名でした。上野さんは、女性学のパイオニアとしての胸のすくような説得力でシンポジストから見事に話を引き出し、会場からも様々な意見がありすごい盛り上がりでした。2日目の記念講演では柔道家(准教授)の山口香さんが講師で、その道を極めた方の「未来の景色」を自ら切り開いて作った体験談に感動しました。

豊かな心を育む市民の集い参加報告
 平成26年12月6日「防災と災害復興と男女共同参画」
 おじり女性会議 青木慶子

講師の宗片恵美子さん(イコールネット仙台代表理事)から東日本大震災の体験に基づいた「被災地からのメッセージ」と題して講演が行われました。

大震災でメディアがあまり取り上げなかった女性達の現状(被災地の外からでは見えにくい)を、細部に亘って語ってくださり、「防災には女性の視点が必要」であること述べられました。津波から逃れ家を失い避難所生活を送る中、期間が長期になれば被災者の状況は体力的、精神的に深刻になっていく。特に女性ならではの困難、例えば仕切りが無いため寝返りを打つたら知らない男性が隣で寝ていて恐怖を感じた。更衣室が無いため布団の中やトイレで着替える。授乳室が無く男性の目があるので、やむを得ず母乳から支援物資のミルクに切り替えたが、哺乳瓶やお湯も手に入らない。更に女性特有の物資が届かない。届いても男性から受け取るの抵抗があった。他にも多々人権意識が問われる場面があったようです。

仙台市ではこのような事を踏まえ「日頃から女性の立場を重視した活動を育む事は大切」と女性の災害・復興アドバイザーを育成するためにリーダー養成講座を開設し、既に二期生が育っている。机上の論理で済まらず、着実に支援体制を有効性あるものにして行く行動力に圧倒されました。

東日本大震災で大変な苦しみの中で、女性達が胸の内を正直に語った困難を「困難でした」で終わらせず教訓にして防災について女性達が主体的に発言し、責任を持って関わっていくための取組が既に活躍し始めていると言うエンパワーメントに大変励まされた講演でした。

編集後記

「豊かな心を育む」大会で三人の中学生の作文発表がありました。ダウン症の妹を「大好きな妹」と面倒を見る女生徒、認知症で攻撃的な祖母を家族みんなで世話をする男子生徒、先天性難聴でも吹奏楽でホルンを吹く女生徒、この発表で身辺の苦難を乗り越えようと立ち向かう姿に感動を覚えました。

赤羽すえみ

「介護の未来」をコンセプトに現場の介護職員として将来を担う専門学校の生徒の皆さんをインタビューしました。「介護は心」「接遇教育」を理念とした学校に学ぶ生徒さんの介護に対する真摯な気持ち、ひとの温かさが伝わり、介護の未来に希望が持てました。実際に日々現場で介護と向き合っている職員の皆さんのご苦労に敬意を表します。

川上 博昭

相談案内 ●お気軽にご相談ください●

♡塩尻市女性相談 [面接相談は要予約]
 [電話相談・面接相談 月～金 9:00～17:00]
 0263-54-0783

♣県松本保健福祉事務所 (松本合同庁舎内)
 0263-40-1914

◇県女性相談センター 026-235-5710

♥女性の権利ホットライン(長野地方務局)
 0570-070-810

♠塩尻警察署(生活安全課:DV相談) 0263-54-0110

信州介護福祉 専門学校

有料老人ホーム せせらぎ

1. 介護の専門職を目指す 学生の想いは高く!

◎ 志したきっかけは?

山田(真):小学校時代から施設訪問し、同じ施設で高校生の時ボランティアをしたら、自分のことを覚えていてくれて感動し、将来の仕事にしたいと思いました。

◎ 介護実習をしてみてどうでしたか?

牛越:その日によって介護する方の状態が変わるので、どう合わせるかが課題です。

◎ 将来への心構えは?

山田(美):介護を学んで、従事する側としての「自覚と専門性を広げていかねば」という必要性を感じています。

◎ 介護の将来を見通して、将来への不安はありますか?

山田(真):「天職だ」と思って努力しても、生活していける収入が無ければ大変だと思うので、不安はあります。

◎ 「家庭を持っても仕事を続けよう」と思いますか?

山田(美):今も家庭を持っていますが、家族の協力を得て学んでいます。資格を取ってスキルアップして仕事と家庭との両立をさせたい。育児と仕事とのバランスも考えながら決めていきたいと思っています。

中村:結婚して離職したとしても、その後また復職して働きたいと思っています。



山田真彰さん 牛越康仁さん
中村彩さん 山田美由希さん

2. 介護福祉士育成に全力で臨む 先生方の願いは?

◎ 学生は男女比が「半々」だが、教育に男女による「差」はありますか?

岡田:性別に関わり無く「現場のプロとしての対応」を指導しています。

利用者一人ひとりの特性や、生活歴、価値観など全部を把握した上で、その人に相応しい介護が必要となるので、誰にもできる事では無いと思います。

◎ 学生に「どんな力」を身につけて欲しいか?

岡田:知識以前に「言葉遣い・挨拶・礼儀」など、人としての大切な心構えを確立できるように指導をしています。

◎ 男女共同参画を踏まえての指導とは?

岡田:介護は「社会全体で支えていくもの」として、男性も女性も共に人として介護を同じ視点で考えていく必要があります。男女が協力して一つのものができるのだと思います。

武井:気持ちの面、身体の面、社会性の面など色々な面を共に一緒に歩む伴走者、生活を支えるプロになってほしいと思います。



武井浩子先生 岡田千秋先生

◎ 学校は「接遇教育」重視だが、施設での接し方は?

相談員:利用者様の気持ちに寄り添うのが基本だが、チームで仕事をしているので、同僚の気持ちも考えて行く。チームの中での気づきや、思いやりも大切だと思う。利用者様の性格等を理解し、職員同士で情報を分け合い共通理解の元に接しています。



外部相談員:「大変な仕事」とよく言われるが、やり甲斐や誇りを持ってやるのが、男女ともに大切なことだと思います。

介護士:利用者様に「どう関わっていくか」の葛藤はありますが、その中で職員同士で相談しながら「想い」と「現実」との気持ちのバランスを取っています。

パートリーダー:利用者様からの「ありがとう」の一言がやり甲斐になり、逆に助けられていると感じます。その一言で全てが報われます。

◎ 男性と女性の職員で、利用者への対応に違いが出ますか?

介護士:お風呂やトイレの介助では、女性の利用者様が男性職員を拒否される場合があります。出来るだけ希望に添うようにしていますが、夜勤などで限られた人員の中でやむを得ない場合は、了解を得て対応しています。

◎ 入所者の家族に伝えたい事は?

介護士:出来るだけ何度も逢いに来て欲しい。ご家族への笑顔は全く違う。私たちはどんなに頑張ってもご家族の方の代わりにはなれません。

看護師:「お任せします」と言う方が多いが、24時間看ていると、ご家族の方より現状がよく分かるので、ご家族の方の見方とズレが生じてしまう。ご家族の方には常に、今の本人の状態を伝えるようにしています。

外部相談員:ご家族の方はもっと「介護保険制度」について勉強し、理解して欲しい。

◎ 男性職員も女性職員もこの仕事をずっと続けたいか?

相談員:将来結婚して家庭を持つ事を考えると、収入面が一番心配。資格を取りステップアップしていきたい。

外部相談員:国の介護保険の施策の中で、介護職員の給与がなかなか上がらない。

内部相談員:男性職員の方は、離職していく方が多いのかな?と感じています。

パートリーダー:女性には結婚・出産後、家族の協力があれば復帰し易い職場ではないかと思っています。



インタビューの感想 青木慶子

「接遇教育」と言う、人として受け入れられてもらえる人間教育を受けている四人の学生達は、「介護される人の気持ちに寄り添いたい」と言う人としての温もりを持っており、感銘を受けました。男性も女性も協力する時に生ずるパワーが介護の世界にも広がっていくなら、「明るい希望が持てるだろう」と思いました。

インタビューの感想 加藤智子

インタビューに答えてくださった職員の方達は、男女共にそれぞれの立場で、やり甲斐や誇りを持って、この仕事に取り組んでおられる事がよく分かりました。キャリアが必要な職場にも関わらず、特に男性が将来の収入面に不安を感じて途中で辞めていく方が多いと聞き、とても残念に思いました。